東京の会通信

No.306

2023年1月1日号
（隔月1日発行）

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031　東京都千代田区
東神田1-3-4　KTビル3階
TEL：03-3866-8171
（FAX兼用）

http://www.marrow.or.jp/tokyo/
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

2023年の年頭にあたって

あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルスが引き続き猛威を振るい、ウクライナではロシアによる侵攻で戦争が起きるなど、暗い気持ちになる出来事が多い１年でした。また、円安と物価高で私たちの生活も厳しくなってきています。今年こそは平和で明るい話題の多い年になってほしいと切に願っています。

東京の会は、コロナウイルス感染拡大による活動自粛から徐々に活動を再開しつつあり、昨年11月には３年ぶりに求道会館でピアノ三重奏コンサートを開催することができました。

幸いなことに若い仲間も増えてきており、今年はドナー登録拡大や患者支援などの活動をさらに活発にしていきたいと思います。皆さんのご協力と活動への参加をよろしくお願いします。

今年も皆さんが健康で、ますますご活躍されることを祈念して新年のあいさつといたします。

骨髄バンクを支援する東京の会　代表　二見茂男

献血の目標大幅達成！ドナー登録もありがとう！

今年も東京雪祭スノーバンク開催！若者に感謝！

今回で12回目の開催となった東京雪祭「SNOWBANK PAY IT FORWARD2022」（スノーバンク）は、『楽しいから始まる社会貢献』をテーマとして、普段献血ルームに足を運ばない若者に献血・骨髄バンクを知って行動してもらうキッカケの場として代々木公園の秋の風物詩となっています。2008年に血液の難病「慢性活動性EBウィルス感染症」と診断され、自らも骨髄移植を経験したプロスノーボーダーの荒井“daze”善正さんが、献血・骨髄バンクドナー登録の必要性＆スノーボードの楽しさを伝えるべく2011年から主催しています。11/12～13の２日間、献血バスを４台配置し、目標：献血333名・ドナー登録111名として開催しましたが、目標献血者数を大きく上回る受付人数567名、献血実施数471名、骨髄バンクドナー登録数102名という素晴らしい結果となりました。全国協議会の呼び掛けで首都圏のボランティア団体から説明員とボランティアが運営に加わり、東京の会からは、説明員：松下・小山内・竹崎・安藤・光江・松阪・三土・泉・中根・笠原・安井の11名、ボランティア：幸川・二見の２名が参加しました（敬称略）。参加した方々より報告してもらいます。

◆私が代々木公園スノーバンクに参加するのは今年で２度目になります。最初はボランティアとして。コロナ禍真っ只中でしたので、声を出さないで「献血呼掛けボード」を持って歩く一日でした。

今回は説明員としての参加で緊張していました。会場には沢山の若者、この方達にドナー登録の説明をするのだと思うとさらに胸がドキドキ。テントが張られテーブルの準備も出来、私は一番端っこにスタンバイしておりました。緊張している私の目の前に、男性が案内されて来ました。とても優しそうな方で少しホッとしましたが説明する声が上擦る感じです。頑張らなくてはと一生懸命「グラビア」に沿ってゆっくり説明していくうちに、少し落ち着き終了しました。最後に「いかがでしょうか？」と問いますと「いいですよ、登録しますよ」と言って下さり、嬉しくて嬉しくてホッとしました。そして私は胸の中にいつも居てくれる主人に「登録してくださったよ」と伝えました。そして移植を待っていらっしゃる患者様に一致する様願いました。

主人を亡くして10年、今後も身体が動く限り、頑張って参加したいと思います。　（安藤澄子）

◆2022年11月12日（土）、13日（日）、代々木公園イベント広場で、第12回スノーバンクが行われました。今回初めて参加をさせてもらいました。かなり大掛かり

なイベントで人工雪で公園内にゲレンデを作り、多くの若いスノーボーダーが参加していました。

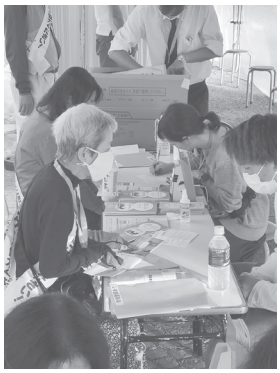
メインの献血と骨髄バンク登録ですが、目標は献血333名、骨髄登録111名に対し、実績は献血471名（受付567名）骨髄登録102名でした。これだけの規模を東京の会だけでは賄えないので千葉の会、神奈川の会、埼玉の会からも応援をもらい達成したのは素晴らしいチームワークだと思います。

私は初日はボランティア、２日目はドナー登録説明員をしました。初日に入口でギフトオブライフを配って案内をしたところまだ登録をしていない方が多いように思えました。入口で献血・ドナー登録のアプローチをして、献血バス登録会場の中でのドナー登録説明に繋げるオペレーションが今後の課題だと思います。幸いに日赤さんもとても協力的なので、自分達のフォーメーションを確立するともっと登録者が増えると思いました。来年こそは目標をクリアするように頑張りたいと思います。（泉　孝之）

◆11月第２土曜日、日曜日は代々木公園で毎年恒例のスノーバンクです。今年は献血バスが４台出動して献血とドナー登録会が行われました。人工雪のスロープでスノーボードに盛り上がる会場の一番奥に献血バスが４台並んだ光景は圧巻でした！

その会場で私は一日目に朝からずっとドナー登録の声を掛け続けました。血圧を測るお手伝いをしながら、「ドナー登録の説明を聞きませんか？」と声を掛けるのは、登録に繋がる第一歩の説明員の重要な仕事です。ここで「説明を聞いてみようかな」と思ってもらえるように丁寧に声を掛けるのが大事です。

そしてスノーバンクは「既に登録しています」という人が多いのが特長で、10年以上続いて来たイベントならではで、ずっとドナー登録を呼び掛けてきた成果の現れです。そういう方へは、「登録の住所から引越ししていませんか？」と声を掛けて、今回も何人もの方に住所変更の仕方を案内しました。既登録者の多いスノーバンクは、「連絡つかず」の人を登録に復活してもらう大変良い機会になっていると実感しました。


テント内でドナー登録説明

今年は２日間で献血は471名で、目標の333名を大きく超えた成果を上げ、ドナー登録は目標111名にあと少し届きませんでしたが、102名に登録していただけました。毎年多くの参加者を集める努力を続けているスノーバンクスタッフの皆様には敬意と感謝しかありません。また来年の開催も楽しみにしています！（松下倫子）

◆私は今回、このイベントに説明員として初めて参加させていただきました。今残っている印象は、とにかく「熱い」イベントだったということです。主催者・参加者の皆さん、そしてボランティア・説明員の皆さんの献血や骨髄バンクにかける思いを非常に強く感じる場面が多くあり、これこそが長く続いてきた理由なのだと感じました。

特に、前日に声が枯れ、大変聞き取りにくかったであろう自分の話を丁寧に、真剣に聞いてくださった参加者の皆さん、そして説明活動の一端を任せていただいた東京の会の皆さんには本当に感謝しています。この場を借りて御礼申し上げます。

これまで長く続けてきたイベントをこれからも長く続けることができるように、自分ができることをしていきたいと思っております。この度は貴重な機会をいただきありがとうございました。（中根悠貴）

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー
（令和4年11月末日現在）

	ドナー（全国）	ドナー（東京）	患者（全国）
登録者累計	543,957	69,795	65,501
10-11月登録分	6,912	1,076	385
10-11月抹消数	4,181	509	－
実質登録増	2,731	567	－

患者とドナー登録･適合状況（11月末日現在）

ドナー登録受付者数（累計）	911,699人
ドナー登録抹消者数（累計）	367,742人
HLA適合報告ドナー数（累計）	364,083人
実質登録患者実数（現在）	1,664人（国内1,193人）
HLA適合患者数（累計）	52,152人（患者累計数の79.6%）
非血縁移植実施数	27,215例（10-11月実施168例）

東京の会
「1月、2月定例会」
のお知らせ

1月28日（土）、2月18日（土）午後5時30分より

会場：こくみん共済coop東京会館
（旧：全労済東京会館）3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※3月定例会予定・3月18日（土）午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

求道会館で3年ぶりのコンサート開催

11月23日に秋の恒例行事、ピアノ三重奏コンサート「響」が3年ぶりに求道会館に帰ってきました。今年は新型コロナウィルス感染予防のため、開催時間の短縮や来場者数に制限を設け開催致しました。当日は冷たい雨が降る中、60名の方に来場頂きました。今年のプログラムは高田匡隆さん（ピアノ）、小澤洋介さん（チェロ）、三戸素子さん（ヴァイオリン）のソロ演奏から始まり、最後にベートーヴェンのピアノ三重奏という構成でした。恒例のミニシンポジウムは時間の短縮を図るため今年はプログラムから除外しました。短い時間でしたが多彩で重厚な時間を過ごすことができました。

◆今年のコンサート、それは４年前の光景とは大きく違って見えました。あの日も寒く雨が降っていました。翌年の演奏会には病気で参加出来ませんでした。今年も寒く冷たい雨が降っていました。しかし、会場に入った時、何かとても豊かな暖かい空気に包まれたようでした。一瞬、この４年の歳月に亡くなった知り合いの顔、５回のワクチンそれでもかかってしまった家族のこと、何のお手伝いも出来ない不甲斐なさ、それらが頭をよぎります。でも次の瞬間から席のあちこちに、そして通路を行き来する東京の会の皆さんの暖かい言葉や挨拶に、参加出来た悦びがわき上がってきました。天井から注ぐ明かりが、こんなにも豊かな暖かい色だったかと見つめました。

そして、小澤さん、三戸さん、高田さん、思いがこもった演奏のすばらしさ、臨場感あふれるお三方の演奏に再び参加出来た嬉しさと感謝。

若木さん、光江さん、そして再開に心砕いてくださった皆さん本当にありがとうございました。（及川耕造）

◆コロナ禍のもと、感染を防止するため開催を見合あせていただいていた「ピアノ三重奏チャリティーコンサート」を今年は開催することになり、会場は文京区本郷の求道会館にお願いして準備を進めました。その間コロナ感染者数が新たな増勢を見せ、気をもませましたが、入場者を制限して密にならないよう配慮して開催日の11月23日に至りました。

プログラムが始まると演奏者が今回特別の気配りをされて選曲されたのではないかと感じました。ピアノ三重奏はピアノ、チェロ、ヴァイオリンで演奏されますが、今回の演奏では前半に各楽器の独奏曲が演奏されました。ピアノはショパン：ノクターン48－１、チェロはサンサーンス：白鳥、ヴァイオリンはサラサーテ：ツィゴイネルワイゼンが独奏されました。休憩後ベートーヴェンのピアノ三重奏曲第７番変ロ長調「大公」作品97が演奏されました。

独奏では楽器の特徴を活かした美しい音の調べを楽しみ、三重奏では異なる楽器の出す音の重なりの美しさを感じさせられました。（新田恭平）

◆今回のコンサートは特別な思いがありました。東京の会のボランティアではなく、何のお手伝いもせずにただの観客として参加した初めてのコンサートでした。しかも白内障の手術をしたばかりで、眼内レンズの焦点を30センチにしたため老眼はすっかり良くなり、小さな字もきれいに読めます。でも視力0.5のド近眼は治りません。新しい近眼用眼鏡を作るのは、手術後の度数が安定した１か月後になります。我が家の50インチテレビを顔を近づけて見たり足元も不安で周りが見えない生活でした。

そんな時電車に乗って夫と二人（手を引かれて？）久しぶりに外出したコンサートです。コロナ禍の中で感染予防の為、求道会館で60人の座席制限の開催でしたが音楽を楽しみたい皆様の喜びに溢れていました。

このチャリティコンサートが始まって30年を経て、年齢を重ねてますます円熟味を増した演奏に酔いしれた、「ピアノ三重奏2022響」でした。心から感謝致します。（大塚礼子）

◆毎年恒例だったコンサートが３年ぶりに開催されました。会場となった求道会館は、仏教の寺院と西洋の教会がごく自然に融合したとても厳かなたたずまいの貴重な文化財で、音の響きがとても良いとのことです。

そんな素敵な空間の中で久しぶりに三戸さん、小澤さん、高田さんの素晴らしい生演奏に感激しました。豊かで力強い、ピアノ三重奏の調べに触れることができ、とても贅沢なひと時を過ごすことができました。演奏活動もままならない状況の中で、30年間もチャリティーコンサートを続けて来られたお三方の温かい思いのこもった演奏はいつも大切なことを教えてくれ、勇気と力を与えてくれます。

またコンサートの開催は東京の会の皆様のご尽力があればこそかなえられたこと、本当にありがとうござ

いました。また日ごろの活動にもとても感謝しております。今後はほんの少しでもお手伝いできるようしたいと思っています。（名川一史）

◆今回のコンサートはコロナウイルス流行後初めての開催となりましたが、運営にあたり様々な課題がありました。

開催日と流行のピークが重なったら？会場の入場制限は？お客さんが何人入れば運営できるの？現在東京の会では事務所にスタッフが常駐していません。そんな中でチケット予約の受付は？チケットの受け渡しはどうしようか？などなど。皆で知恵を出し合っての開催でした。

迎えた当日はあいにくの寒い雨。こんな中本当にお客さんが来てくれるのだろうかと開場直前までドキドキしていましたが、定員ぴったりのお客様で会場は満席になり、無事にコンサートが開演。求道会館で久しぶりに聴く演奏はとても素晴らしく、開催までの苦労は全て忘れてしまいました。

私は受付をしていましたが、久しぶりに会うメンバーやいつも寄付を頂くけれどもなかなかお会いできない会員の方々、そのお友達が再会を喜び、演奏に感動して帰られる様子を見て、心から開催できて良かったなと思いました。また来年も同じように皆が集まりステキな音楽を聴ける事を祈りながら帰途につきました。（石崎友子）

◆11月23日に、チャリティーコンサート「響」が無事に終わりました。コロナによる中止やオンライン配信をはさんで、３年ぶりに生で開催できたことで、笑顔で帰られたお客様と共に演奏者やボランティアにとっても感慨深いコンサートになりました。

今回のプログラムはいつもと趣向を変えて、前半はそれぞれのソロ演奏、後半が三重奏によるベートーヴェンという構成でした。ソロの曲は誰もが聞いたことのある短めの有名な曲ばかりで、演奏者による曲の解説の後、各人のテクニックにも感嘆しつつ聞き入りました。そして後半の「大公」は昨年のオンライン開催でも演奏された名曲です。クラシック初心者の私ですが、何回も聴くうちにだんだんこの曲が面白くなってきました。

求道会館の木の壁や床や天井に優しく反響するヴァイオリン、チェロ、ピアノの三重奏に、いつまでも身をゆだねていたいと思いながら、演奏者やお客様に感謝しつつ、慌ただしく後片付けをして会場を後にしました。（福永達子）

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2022.10.16～12.15)

小松美穂さん　2,000円／中川里枝子さん　2,000円／小柴良介さん　2,000円／清水展美さん　7,000円
鳥羽雅行さん　10,000円／匿名希望　30,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費（年3,000円）を差し引いて掲載させていただきました。

2022コンサート響寄付

奈良久美子さん　10,000円／柴山洋久さん　5,000円／若木貞子さん　5,000円／成木陽子さん　6,000円
及川耕造さん　3,000円／大塚礼子さん　4,000円／新田恭平、雅子さん　4,000円／中森立子さん　10,000円
松下倫子さん　1,000円／二見茂男さん　2,000円／福永達子さん　3,000円／光江健太郎さん　1,420円
中谷光子さん　1,000円／安藤澄子さん　2,000円／名川一史、久美子さん　4,000円／竹崎恵子さん　1,000円
幸川はるひさん　2,000円／求道会館当日募金箱　5,580円

3月会報発送
「おりおり」のお知らせ

日時：2023年3月5日（日）14時00分より
※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。
※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、お越しください。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4　KTビル3階）
交通：都営新宿線「馬喰横山」駅　徒歩５分
都営浅草線「東日本橋」駅　徒歩７分
東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅　徒歩７分
JR総武快速線「馬喰町」駅　徒歩５分

※5月「おりおり」予定　2023年5月7日（日）14時より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、必ずマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようにお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

東京ドナー登録会予定（1月・2月）

１月７日（土）　ぽっぽ町田
１月９日（月）　明治神宮
１月27日（金）　東京都庁
２月27日（月）　杉並区役所

骨髄提供者からのメッセージ

ドナー登録から骨髄提供に至るまで、そしてその後

Message from Donor

西　慶倫

2005年の年末、実家福岡へ帰省した時に、骨髄移植を受けるために福岡の九州がんセンターに入院していた奄美大島（父親の田舎）に住む遠い親戚の女の子が、年末年始の外出を許可され家族で、福岡の実家で一緒に年末年始を過ごしました。その女の子はドナーさんが決まっていたのですが、ドナーさん都合で提供を受けられなくなり、急遽さい帯血移植を受けたのですが、２月に亡くなったと連絡を受けたことがきっかけで、2006年３月に定期的に行っている献血の際にドナー登録をしました。

ドナー登録した後、夏に帰省した際に両親に伝えましたが、「いいことをしてるね」といった感じで肯定的に受け止めて貰えました。その後、定期的に送付されてくるバンクニュースを見るたび、ドナー登録していることを思い出していました。

ドナー登録から９年後、2015年７月に骨髄バンクからオレンジ色の封筒が届きました。封を開け、内容物を確認して、私の白血球の型と適合した骨髄移植希望の患者さんが現れたことが分かり、提供できるように準備をしていこう、と気が引き締まりました。

その後、８月中旬に確認検査を受けて、８月末にはドナー選定のお知らせが届きました。ドナー選定のお知らせを頂いてからは、日常的に行っていたランニングや日常的に服用していた蕁麻疹の薬を止めて体調維持に努めました。10月１日に最終同意面談があり、コーディネーターさん・弁護士さん同席のもと、妻と共に、骨髄提供に関する同意書にサインをしました。妻にはこの時、同意して貰えたのですが、葛藤があったことを後から聞きました。

その後、11月上旬に提供の日が決まり、骨髄提供後に輸血するための自己血採血を10月中旬・10月下旬に実施しました。骨髄提供は３泊４日の日程でした。入院初日に健康診断を実施し、翌日午前中に骨髄採取を行いました。骨髄採取は全身麻酔だったので採取中の痛みは全く感じることなく、意識が戻ったのは手術室から病室へ移動している時でした。採取後の痛みは、献血をしたときの痛みのような感じでした。その他、採取後から38℃くらいの発熱が夜まで続きましたが、夕方には病院の売店までおやつを買いに行く元気はありました。翌日は１日病室で安静にしていました。最終日は採血と問診を行い、無事退院となりました。退院後、出張で東京に来ていた父と会い骨髄採取が問題なく終わったことを話しました。

湘南国際マラソンを走る筆者

◉１回目の骨髄提供を終えて

１回目の提供を終えて、あと１回しか提供できないんだと思い、提供以外にできることは無いかと考えていた矢先、2015年12月に参加した湘南国際マラソンで、骨髄バンクのたすきをかけて走っているランナーを見かけて、これなら私にも出来ると思い、骨髄バンクからたすきを借用して、マラソン大会にたすきをかけて走るようになりました。

2016年12月の湘南国際マラソンで、また、たすきをかけたランナーと出会い、その方と愛知県の元患者さんとともに「骨髄バンクランナーズ」というグループを立ち上げました。現在は、「骨髄バンクランナーズ」で作成したＴシャツとたすきをかけて、いろいろな大会で骨髄バンクの啓発活動をしています。

ドナーご家族からのメッセージ

ドナー家族としての葛藤から感謝へ

西　由樹子　（西慶倫　妻）

骨髄提供について、死亡事例や後遺症の話、様々なリスクのケースを知れば知るほど家族の立場から提供には反対でした。

あるとき、ポストにオレンジ色の封書が届きました。「骨髄移植希望の患者さんと夫の白血球の型が適合した通知だ」と気付き、一瞬で暗く重い気持ちに、そして徐々に「なぜ夫なのか？」という怒りに変わっていきました。夫からは「骨髄提供についての冊子を読んで」「面談で同意書にサインをして欲しい」等を説明されました。提供には配偶者の同意が必須だったからです。しかし、渡された冊子を読む気にはなれませんでした。

私にとって骨髄提供がどのようなものなのか、またその流れが分かったから「はいそうですか」

と首を縦に振れる問題ではなかったのです。その時の私は「リスクは決してゼロでは無い、なぜわざわざ自分から体を差し出すの？」「夫の気持ちを尊重したい」「そうはいっても万一のことがあって、体や心に何かを抱えて生きていくの？」「私はそんなあなたの姿は見たくない！」なによりも「家族を失う恐怖」の中で今までに経験したことのない葛藤を起こしていました。

提供の最終同意面談時、配偶者の意思確認で「夫の気持ちを尊重したい」と答えたものの同意書のサインでは怖さで手が震えました。しかし、その恐れは「自分の目線でしか見えていなかった」と言うことに気付かされる出来事がいくつかありました。

一つ目は、夫は10年以上朝晩常用している薬があります。骨髄提供者は薬を断つ必要があるため、一時的に服用を止めました。当然、薬で抑えていた痛みや痒みが出ていましたが、次第に症状は無くなり最終的には医師の判断で薬を完全に止めることができたこと。

二つ目は、夫の骨髄を移植された方からこれまでの人生での出来事や闘病中のお気持ち、移植を受けられてからのお気持ちが綴られた手紙を頂戴したこと。

三つ目は、夫が走っているマラソンを通じて「移植者も提供者も、マラソンに参加するくらい元気でいるよ」というメッセージとともに、それぞれが大切な思いを持たれて走っている(生きている)姿を見たこと。

そんな姿から、私の葛藤は徐々に晴れ、最後には骨髄提供も夫にとっては「リスクに体を差し出すこと」ではなく、「自分らしくあるための行動のひとつ」と思えるようになりました。また、それらの事を通じて、骨髄提供側・移植側に関わる方々の人を思い合う気持ちとひとつになれた、そんなふうに思っています。そして、移植を待っている方＆受けられた方へ、私はこう伝えたい「いつも共にいます。いつまでもお元気で！」と。

最後に、多くの方々のご尽力と愛ある心を重ねられた活動に対して心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

▼新型コロナウイルス感染症の第８波が到来しています。この原稿を書いている2022年12月半ばの段階では、徐々に感染拡大のスピードが速くなっているように思われます。会報がお手元に届く正月明けの頃には、果たしてどうなっているのか心配です。

▼2020年から2022年３月ごろまでの感染拡大時には、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、外出自粛や飲食店の時短営業などで日常生活に大きな影響がでていました。しかしその後の第７波や今回の第８波では、感染者数や死者数はそれ以前より増えているにもかかわらず、行動制限は行われていません。

▼医療体制が以前に比較してひっ迫度が高くないことや、社会・経済活動の停滞を避けるという政策転換が背景にあると思われます。この年末から年始には忘年会・新年会も多く行われているでしょう。旅行、イベントなども一時期の自粛が嘘のように活発になってきているように見えます。私たち国民の意識も「コロナ慣れ」してきているのかもしれません。

▼今後は否応なくウィズコロナの時代になっていくと思われます。新型コロナウイルスの分類をインフルエンザと同様の５類にするかどうかの議論も始まっています。その是非はともかくとして、基本的な感染防止対策の継続、ワクチンや治療薬、必要な時に治療が受けられる医療体制の確保により、コロナ対策と社会・経済活動を両立していくことが、2023年の日本の大きな課題の一つになると思います。

▼東京の会の活動においても、スノーバンクや東日本大震災復興支援イベントなど、屋外の行事は問題なくできています。またピアノ三重奏コンサートでは座席数を減らして間隔をあけるなど、感染対策をとることで開催にこぎつけました。献血ルームなどでの登録会も継続しています。

▼６月の総会や12月の定例会後には、昼食交流会を開催して楽しい時間を過ごし、ボランティア活動の基礎である人と人とのつながりを再確認することができました。2023年の東京の会の活動も、感染対策をとりながら明るく元気に進めていきましょう。　(S)

郵便振替口座番号　00100－1－555195
他銀行から振込みの場合　ゆうちょ銀行(9900)　／〇一八支店(018)　普通口座№4180512
加入者名義　骨髄バンクを支援する東京の会